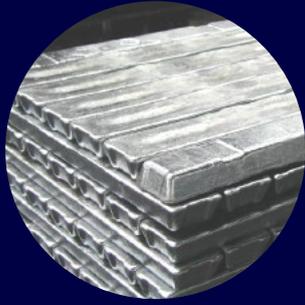


# Ahresty Report 2017

For the year ended March 31, 2017





*Ahresty*

# Research, Service, Technology

## を追求していきます

アーレスティは、R・S・T〈Research〉〈Service〉〈Technology〉という三つの言葉の統合です。

Rは単に研究・開発だけでなく、より一層お客様のお役に立っていくための創意と探求、

Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点、

そしてTはこのRとSを支える知識と技術を示しています。

私たちは常に、より品質の高いResearch、Service、Technologyを追求し、

さまざまな製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

## CONTENTS

<input type="checkbox"/> 株主・投資家の皆様へ	4	<input type="checkbox"/> 環境目標と実績	16
<input type="checkbox"/> 1618 中期経営計画	6	<input type="checkbox"/> 安全衛生	18
<input type="checkbox"/> コーポレートガバナンス	9	<input type="checkbox"/> トピックス	19
<input type="checkbox"/> 事業の概況	10	<input type="checkbox"/> 生きいきと活動する会社をつくる	20
<input type="checkbox"/> 連結財務ハイライト	14	<input type="checkbox"/> 会社情報	22
<input type="checkbox"/> 環境活動	15		

# 株主・投資家の皆様へ



## 持続的な成長を目指して

### — 2016年度の振り返りと今後の展望 —

2016年度を振り返ると、私たちの国内における生産量は増加しましたが、円高を背景としたアルミ地金市況の下落により売上高は減少となりました。栃木工場では、主要顧客の需要増に対応して増設した大型鋳造機2台の稼働を開始しました。国内の大型ダイカスト部品の需要は引き続き旺盛であり、大型鋳造機を持つ東海工場も繁忙な状況が継続しております。北米では、売上高はほぼ横ばいに推移しており、収益面では安定した生産性を背景にメキシコ工場が良化しました。アメリカ工場は、2014年度から生産性の改善に取り組んでおりま

すが、期待した収益を確保するまでには至らず、引き続き改善に鋭意取り組んで参ります。

アジアでは、中国において2年余り低迷していた広州工場の需要が回復したことに加え合肥工場も順調に生産を伸ばすことができた結果、収益面でも大きく改善しました。創業以来苦戦しておりましたインドも徐々にではありますが改善してきております。

アルミ合金地金を生産している熊谷工場においては、市況価格が低下しましたが、国内需要の増加に伴う生産量の増加と

生産性の改善により、売上高・利益とも期初の見通しを上回りました。

クリーンルームやデータセンター向けのアルミ製フリーアクセスフロアの生産・販売・施工を行っている完成品事業は、主に合肥工場にて生産を行い国内と中国にて営業活動を行っております。国内アルミ製フリーアクセスフロアのシェア拡大と中国においても大型物件の受注ができたこともあり、グループ全体の収益にも貢献しました。

2016年度から、中期経営計画「1618計画」がスタートしました。10年ビジョン「信頼を究めよう 2025」を掲げ、「1618計画」では品質、生産性を中心に改善活動を進めております。生産性の向上や、品質面では年々クレーム件数の減少に繋がっておりますが、工場間で改善スピードにバラツキがあります。全工場にて水準の改善に繋がるよう国内は2011年度から四半期ごとに、海外工場においては2016年度から地区別に改善活動の評価会を開催し、同一地域内で良い結果を共有するなど切磋琢磨しております。全工場で同一生産性と品質の確保のためのインフラ整備なども推進しており、成果も出てきました。更にグローバルで標準化、人材育成を計画的に進めております。

また私たちは、社会に貢献するために環境改善活動や社会貢献活動を積極的に行っております。先ず環境面ではCO<sub>2</sub>の排出量削減に取り組んでおり、生産原単位 kg-CO<sub>2</sub>/t の目標に対して国内11事業所中7事業所が事業所の目標を達成し国内全体の目標も達成いたしました。廃棄物発生量は11事業所中9事業所が、水使用量では対象となる7事業所中5事業所が目標を達成いたしました。環境に対する意識向上につながるアーレスティエコライセンスの取得者も社員の8割近くに達しました。

社会貢献活動は、各事業所において里山づくりや近隣の清掃活動などを進めており、多くの社員（事業所ごとに6割から9割以上）が積極的に活動しております。

最後に、当社の主要事業であるダイカスト事業を取り巻く環境として、全世界の自動車需要は新興国を中心に成長が続くと予測されています。一方で環境規制が各国・地域で強化されていくため、ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車が増加し、更には電気自動車や燃料電池車という全く内燃機関を使わない車へのシフトも予測されています。電池の蓄電能力や大きさや価格の改善、充電時間や充電インフラの整備、燃料電池車では価格に加えて水素ステーションのインフラ整備など課題は多く、当面は内燃機関が主流で推移すると考えています。しかし、長期的にはエネルギーの電気シフトは必至と考えられます。私たちは、軽量でリサイクル性に優れ設計自由度や生産性に優れたアルミダイカストが、車の軽量化で貢献できると考えています。エンジンやトランスミッション以外の、車体や足回りなどの軽量化ニーズに応えるために、今年1月から専門の部隊を発足し営業活動と市場調査を開始いたしました。各社の求める軽量化対象部品やその要求機能を理解し、それらに対応するものづくり力の強化に繋げて将来の需要構造変化への準備を進めております。

皆様のご理解、ご支援を引き続きお願いいたします。



代表取締役社長  
最高執行責任者

高橋 新

## 経営基本方針

常に生きいきと活動し  
理論と実験と  
創意と工夫を尊重して  
品質のすぐれた製品と  
行き届いたサービスを提供しよう

# 1618 中期経営計画

## 事業環境

### 自動車のグローバルでの生産増加とアウトソーシングの流れ

世界の自動車生産は中国・新興国を中心に増加が見込まれ、2020年で1億台、対2015年では約1200万台増加しており、今後もほぼ同規模でマーケットが拡大していく予測（IHS調査）です。さらにはIEAによると2050年には2億台を突破する見込みです。

この旺盛な需要の中で、自動車メーカーは燃費規制対応、EV、HV・PHV、自動運転車など様々な面での投資が必要となっており、設備投資の相対的な優先順位から、ダイカスト製品の生産はアウトソーシングの方向にあると考えられます。

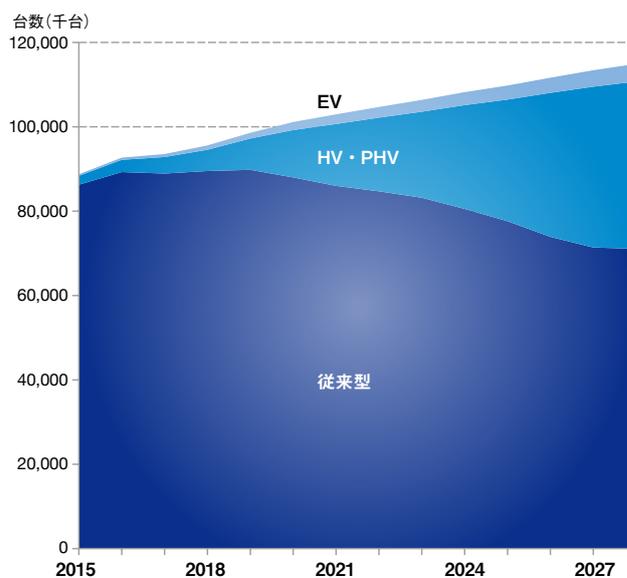
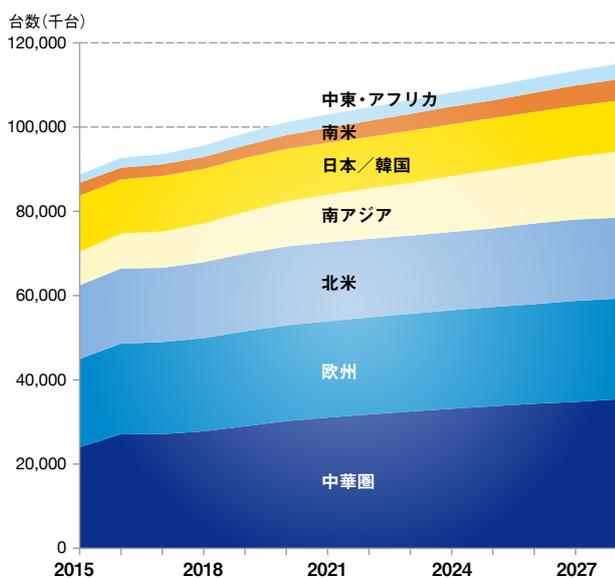
### 燃費規制の強化による軽量化ニーズの拡大

自動車の燃費規制が益々厳しくなる一方、安全性や快適性向上の観点からの保安部品や多様な車載部品により、自動車の重量は増加傾向にあります。軽量化ニーズへの対応として、小型化や車体構造の変更の他、軽量化材料への転換が進んでいます。軽量で設計自由度の高いアルミダイカストがこの軽量化に貢献する機会は大いと考えられます。

### EV、HV・PHV等への対応

IHSの見通しでは、少なくとも2028年ごろまでは従来型とHVやPHVなどの内燃系エンジン搭載車も引き続き需要の拡大が見込まれており、エンジンやミッション系部品生産への影響は限定的と見られます。

しかしながら将来的なEV市場拡大への対応に向けて、当社ではボディ系部品の専門チームを2017年1月に立ち上げ、将来の当社の貢献分野拡大に向けた準備を進めています。



世界ライトビークル生産台数予測 ©2017 IHS Inc. All rights reserved

## 1618 中期経営計画の進捗状況

2016 年度からスタートした 1618 中期経営計画では、ものづくりを究め進化させ、アーレスティプロダクションウェイを確立していくことを基本方針に、5 つの柱に対して全従業員が積極的に活動しています。ダイカスト鋳造、加工、金型、地金材料、設計などの第一線の技術者や営業本部、管理本部のメンバーによる推進グループが、国内外で定期的に開催する方針評価会で PDCA を確認し推進しています。2016 年度は国内 4 回（四半期毎）、海外 9 回（北米、中国、インド・タイで各 3 回）開催し、グローバルで方針推進活動を行っています。



### 1 大型高難易度製品の顧客評価 No.1 を実現する

1618 中期経営計画に沿って、営業活動をグローバルで推進してきました。2016 年度は、北米・中国の営業人員の拡充や北米オフィス開設など営業体制の強化を図り、中国での受注拡大などにおいて成果が出てきています。

また投資効率、生産効率の高いライン（アーレスティ・スタンダード・ライン）をグローバルで水平展開することを目指し、栃木工場においてエンジブロック専用ラインの立ち上げを行っています。



### 2 ものづくりを究める

グローバルレベルでの業務改革・標準化を目指して、①グローバル基準でのものづくりプロセスを確立、②信頼を究める品質保証の確立、③技術のロードマップの実現、④徹底した製造原価低減活動を柱に推進してきました。2016 年度は、鋳造・加工の最適製造条件の監視と管理の実施、ランクアップ活動による品質保証体制の構築、技術のロードマップに基づいた課題の解決と技術の蓄積、不良やムダの低減と原単位管理による原価低減の推進を行っています。

品質保証に関しては各工場での効果的な取組みの水平展開により、クレーム件数の減少など品質水準の向上に結びついています。また、全工場で同一の生産性と品質を確保していくため、インフラ整備や保守メンテナンス力の向上にも努め、成果もあがっています。引き続きグローバルでしくみを統一し、高いレベルでの同質のものづくりと品質を実現するための施策を進めていきます。

### 3 生きいきと活動する会社を築く

ものづくりを究めるためには、常に高いレベルを目指したひとづくりが欠かせないと考えています。社員の行動基準である RST Way を実践できる企業風土づくりと、ものづくりを究める人材育成によるアーレスティのひとづくりを進めています。グローバルで全社員が同水準の教育を受講できるよう、

2016 年度には、これまで日本で展開してきた教育システム「RST 学園」を海外にも展開し、「グローバル RST ラーニング」としてスタートさせました。また、社内外に誇れる功績をあげた部署や社員を表彰するアーレスティ・アワードも創設し、社員が生きいきと仕事ができる風土づくりを行っています。

### 4 収益力を高める

中長期的な事業発展・企業成長のための財務体質と経営基盤の強化のため、ものづくりを究める施策による製造原価低減や生産性向上とあわせ、収益管理の質を高め収益力の改善を進めてきています。2016 年度には、グループ会社間の資金調達、運用を進め財務力の向上にも努めています。売上高は為替と地金市況の影響により減収となりましたが、生産量は拡大が続いており、営業利益率をはじめとする経営指標においても中期経営計画の目標に向けて着実に進んでいます。

1618 中期経営計画 計数目標と実績

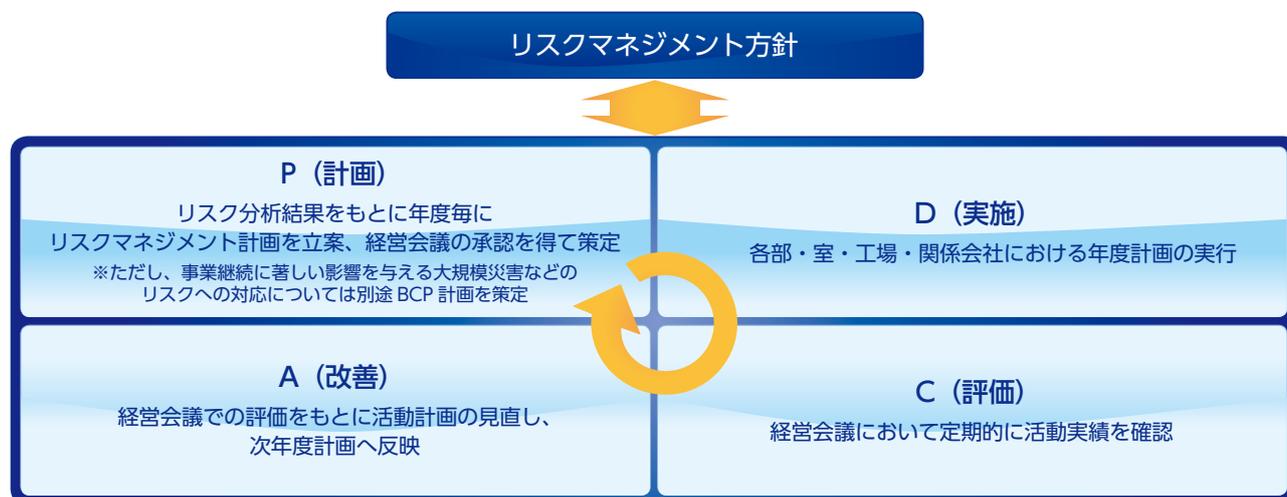
	2015年度 (実績)	2016年度 (実績)	1618中期経営計画 (目標値)
売上高	1,445	1,366	1,500
営業利益率	3.7%	5.1%	5.5%
総資産利益率 (ROA)	2.1%	3.6%	3.0%
自己資本利益率 (ROE)	5.0%	7.9%	7.0%

### 5 リスク管理を徹底する

BCP の訓練、リスクマネジメントなどにより想定リスクに対する事業継続力を高める努力を続けています。

2016 年 4 月に発生した熊本地震では当社の熊本工場も被災をしましたが、グループ全体で支援しながら復旧活動を行い、早期の生産再開をしました。自動車メーカーのサプライチェーンの一部を担う当社にとって、災害時の操業復旧が重要です。

当社では熊本地震での教訓も踏まえて、国内各工場で BCP 訓練を実施しました。また海外工場でも、各国各地域でのリスクに応じた BCP 計画の策定を進めています。リスクマネジメントに関しては、「リスク管理規程」に基づき、様々なリスクに対する評価と、その発生の回避及び発生した場合の影響の極小化に取り組んでいます。



リスクマネジメント活動サイクル

# コーポレートガバナンス

株主をはじめすべてのステークホルダーに対する経営責任と説明責任のため、高い透明性を保ち、迅速な意思決定ができる経営体制を確立しています。

## コーポレートガバナンス体制

アーレスティは、2015年6月から取締役会の監督機能強化と積極果敢な経営判断を行う体制の整備のため監査等委員会設置会社に移行しました。

2016年度には取締役会を13回開催し、中期経営計画等の経営戦略、コーポレートガバナンス、グループ経営管理などの議案に対して、活発な議論が行われました。社外取締役からは、海外生産拠点を取り巻く環境に対する情報展開や当社の成長戦略に対するアドバイスなど、様々な意見をいただき当社の経営に活かされています。また、2016年9月にはコーポレートガバナンス・コードの各原則に沿って取締役会評価も実施し、当社のガバナンス体制や役員報酬制度についても議論を行いました。

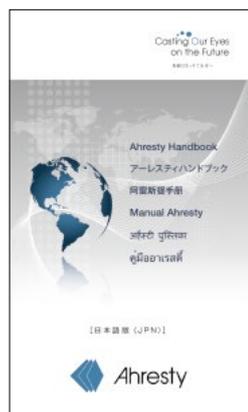
## RST Wayのグローバル展開活動

アーレスティの経営基本方針を社員一人ひとりが実現するための考え方や行動の基本となるのがRST Wayの5つの行動基準「誠実」「率先」「スピード」「成長」「挑戦」です。2017年1月から、この5つの行動基準に対するあり方を見直し、誰にでも分かり易く簡潔に、そして一人ひとりが自分の考え方や行動について宣言を行うものとなりました。2016年度、RST Wayの実践に優れた社員の表彰は111名、日常の業務で社員の模範となる行動を称えるPrize Cardの授与は総計3000枚以上に達しました。

## アーレスティハンドブックのリニューアル

見直しを行ったRST Wayのあり方をグローバルで全社員に周知徹底していくため、RST Way等を記載したアーレスティハンドブックをリニューアルしました。ハンドブックは、日本語、英語、中国語、スペイン語、ヒンディー語、タイ語の6カ国で発行し、各国の社員に配布しています。ハンドブックには、RST Wayのほか、安全理念やコンプライアンス基本方針、アーレスティグループ行動規範等、当社の社員が遵守していくべき基本的な方針等を掲載し、企業倫理の徹底と遵守に努めています。

またコンプライアンスの遵守状況については、当社社長を委員長とするグローバルコンプライアンス委員会を年2回定例開催し、グループ全体の課題と対応の議論を行っています。



## アーレスティが実現すべきWayのあり方

誠実	お客様及びすべての関係する皆様のために、真面目にひたむきに努力します。 多様な意見・考え・価値観を素直に聴いて理解に努めます。
率先	自ら考え、成功に向けて積極的に行動します。 一人ひとりが率先して行動し、大きな改善につなげます。
スピード	社会のニーズやグローバル市場の変化をとらえ、迅速に行動します。 常に仕事のやり方や技術の改善・改革に努めます。
成長	目標に向けて常に進化します。 探究心をもって自分を磨き、期待に応えます。
挑戦	高い目標の達成に向けて果敢に取り組みます。 失敗を恐れず理論と実験、創意と工夫を尊重して挑戦を続けます。

## 積極的なIR活動

アーレスティは、株主・投資家との建設的な対話を行い良好な関係を維持していくことが重要と考えています。2016年度には、従来の決算説明会、経営方針説明会、工場見学等に加え、質疑応答を中心としたスモールミーティングも実施し、経営方針・戦略や業界環境に関する理解を深めていただく活動を行ってきました。株主、投資家との対話で得られた意見については経営陣にフィードバックを行い、企業価値向上に努めています。

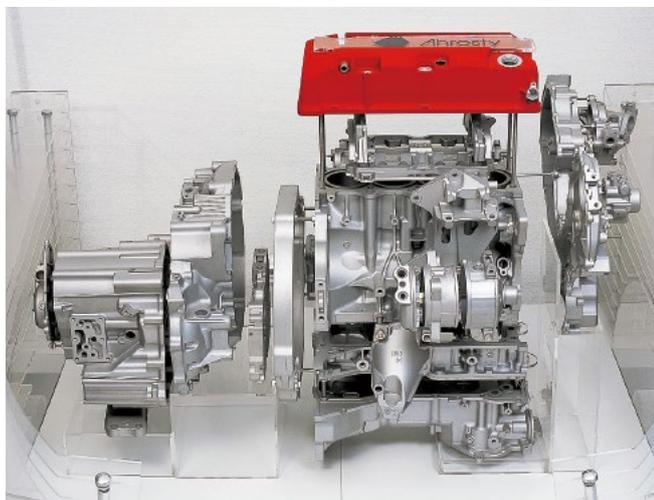


# 事業の概況

## ダイカスト

他社に先駆けて新技術を開発

ダイカスト業界でトップレベルの信頼を獲得



アーレスティの主力事業はアルミニウムダイカストです。自動車産業の発展とともに事業規模を拡大し、売上を伸ばしてきました。

多様化するニーズに応える一方で、ダイカストのネック技術の原因解明を行ってきた結果、他社に先駆けて新技術を次々と開発。従来ダイカストでできなかったものづくりを可能にし、品質や生産効率を向上させるなど、ダイカスト業界での地位を確立しています。

今後も、アルミニウムダイカスト、マグネシウムダイカストにおいて、軽量化、リサイクルを通して環境保護に貢献できるよう、さらなる技術革新を目指していきます。

### 主要なダイカスト製品

アーレスティが生産するダイカスト製品の9割以上は四輪自動車の部品です。その他に、オートバイ、発電機や船外機部品なども製造しています。

#### ■ アルミダイカスト製品

- ・エンジン用 ・トランスミッション用
- ・足回り部品 など

#### ■ マグネシウムダイカスト製品

#### ■ 金型鋳物製品（グラビティダイカスト）

#### ■ その他

- ・ダイカスト用金型
- ・ダイカスト周辺設備
- ・中古ダイカストマシン再生販売

#### ダイカスト製品の特徴

ダイカストのダイ（Die）は金型、キャスト（Cast）は鋳物を意味しますが、一般的な意味のダイカストは、金型を用いて高速、高圧鋳造した鋳物やその製法を表します。

ダイカスト製品の特徴は、生産性の高さや寸法精度に優れており、表面が美しいことです。

表面が滑らかな製品を製造することができるため、その後の加工処理が少なく済む利点があります。ダイカストのそのような特徴から複雑な形状で大量生産が必要な自動車部品などに多く用いられています。

### 私たちは、ダイカストのリーディングカンパニーです。

アーレスティは、自動車のエンジン、トランスミッションなどを中心に、様々なダイカスト製品を製造しています。

近年では、自動車の軽量化ニーズに伴い、ボディ・足回り関連部品のダイカスト化を積極的に推進しています。

#### エンジン《自動車の心臓部》

自動車の心臓部であるエンジンには、たくさんのダイカスト製品が使われています。自動車の高機能化に伴うエンジン部品の高品質化、軽量化の求めに応じて、シリンダーヘッドカバー、カムブラケット、シリンダーブロック、ラダーフレーム、オイルパン、チェーンケースなどのエンジン本体部品の他、各種ブラケット類などの部品がダイカストで作られています。

#### ボディ《軽量化に貢献》

当社独自のHiGF法は、これまでの減圧ダイカスト法に比べキャビティ内の真空度を高めることで、より高品質な大型肉薄製品への適用が可能な工法です。HiGF法を活用したボディ部品のアルミニウムダイカスト化により、軽量化に貢献できると考えています。

#### トランスミッション《動力伝達の要》

トランスミッションはエンジンで作られた動力を扱いやすい回転数に変換する機構です。大型、薄肉、複雑な形状に加え、高強度であるとともに寸法精度や外観品質が厳しく、トランスミッションケース、クラッチケース、ハウジングコンバーターをはじめ、オートマチックトランスミッションの油圧回路の制御に欠かせないバルブボディなどがダイカストで作られています。

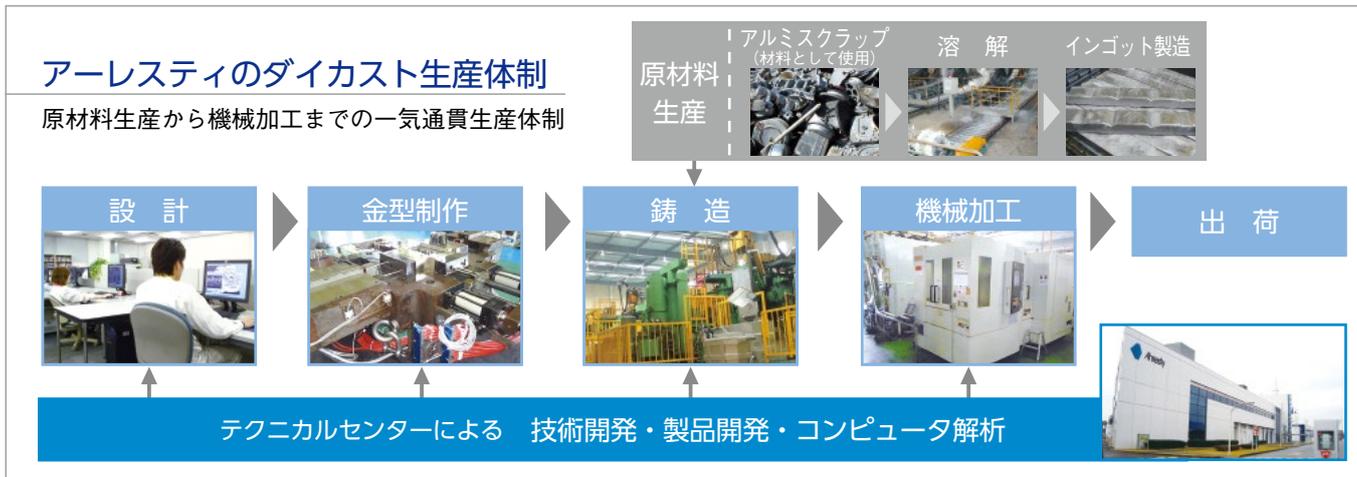
#### 足回り《走行安定性や走り心地に影響》

足回り部品の軽量化は走行安定性や乗り心地に大きな影響を与えるため、高級車を中心に急速に普及し始めています。足回り部品には剛性、強度、靱性、耐食性などが求められるため、NI法などの新しいダイカスト工法で対応しています。この工法で作られるダイカスト製品としてはデフメンバー、ステアリングナックルなどの部品があります。



## アーレスティのダイカスト生産体制

原材料生産から機械加工までの一気通貫生産体制



## 今期の業績報告

### 【ダイカスト日本】

国内では、主要顧客である自動車メーカーにおいて、北米市場向けを中心とした輸出は引き続き好調を維持しており、当社の受注は増加したものの、主にアルミ地金市況が大きく下落したことにより、売上高は 63,008 百万円（前期比 0.9% 減）となりました。収益面においては、主に減価償却費及び労務費の増加等によりセグメント利益は 2,519 百万円（前期比 9.0% 減）となりました。

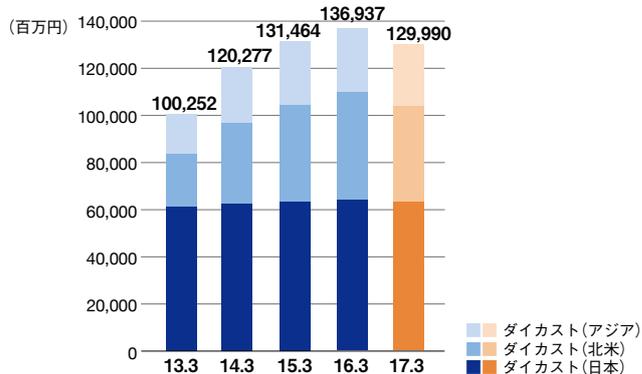
### 【ダイカスト 北米】

北米では、主要顧客である自動車メーカーにおいて、ライトトラック系車種を中心とした販売が好調を維持しています。当社においても関連部品の受注がありましたが、一方で生産終了に伴う受注減少やアルミ地金市況が下落したこと及び為替換算影響等により、売上高は 40,854 百万円（前期比 10.7% 減）となりました。収益面においては、主にメキシコ工場の生産性改善による効果等によりセグメント利益は 2,163 百万円（前期比 42.2% 増）となりました。

### 【ダイカストアジア】

中国では、主要顧客である日系自動車メーカーにおいて、一昨年スタートした小型車に対する減税効果により前年を上回る販売が続き、当社においても関係する新規部品立上げもあり受注量が増加しました。一方インドでは、ニーズの変化によりディーゼル車向け部品が減少したこと等により受注量は減少しました。これらの背景の下、両地域におけるアルミ地金市況が下落したこと及び為替換算影響等が影響し、アジアでの売上高は 26,128 百万円（前期比 5.3% 減）となりました。収益面においては、主に中国における増産効果等により、セグメント利益は 1,758 百万円（前期比 206.6% 増）となりました。

### 売上高推移



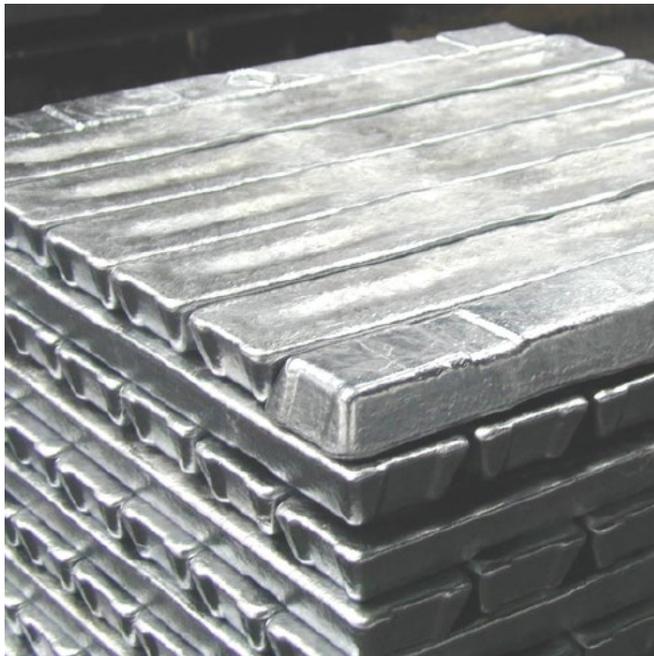
## 来期への展望

今後の経済見通しにつきましては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調が続くものと予想される一方、米国の金融政策正常化の影響、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響等不透明な状況が続くことが予想されます。

このような状況の中、当社グループは、長期的な経営の方向性を示した「アーレスティ 10 年ビジョン」の「信頼を究めよう 2025」を基本方針に、ものづくりを究め進化させ、アーレスティプロダクションウェイを確立することを基本とした施策展開により持続的成長を目指してまいります。

## アルミニウム合金地金

業界トップクラスの設備とノウハウで、  
多様な材料から高品質の製品を生産



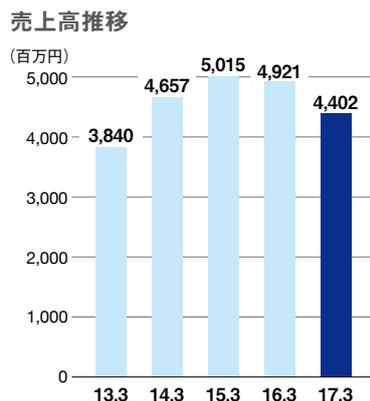
アーレスティのアルミニウム合金地金は、ダイカスト向け（AD系）合金や鋳物向け（AC系）合金の他、特殊用途向けのアルミニウム合金地金など、約40種類の地金を生産しています。全国から集まるアルミニウム缶、サッシ、自動車の解体スクラップなどの他に、アルミニウム新塊や添加材などの原材料をもとにアルミニウム合金地金を生産しており、アーレスティが持つ分析機器やノウハウを活用し、厳しい管理のもと、品質の優れた工業用地金を提供しています。

アルミニウム事業を行うアーレスティ熊谷工場は、1958年業界初の日本工業規格（JIS）表示許可工場、1997年全国初めて改正民活法におけるアルミニウム缶リサイクル施設として認定を受け、アルミニウム合金地金の現有月産能力は3,000トンです。生産された地金は日本各地へと出荷され、顧客から高い信頼を得ています。



### 今期の業績報告

アルミニウム事業においては、販売量は前期に比べ増加しましたが、アルミ地金市況変動により販売価格が下落した結果、売上高は4,402百万円（前期比10.5%減）となりました。収益面においては、原価低減活動による効果等があったものの、販売価格の下落による利益減少要因が大きく影響し、セグメント利益は274百万円（前期比18.9%減）となりました。



### 来期への展望

2016年度は自動車需要増による圧延品、鋳造品、ダイカスト品の需要増加によりアルミニウム製品総需要は2年ぶりに増加となりました。当社でも主要顧客の増産効果などもあり受注重量増となっています。

一方で為替相場の変動から、割安感のある輸入塊の増加や原材料市況が大きく変動するという課題もあり、当事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。その様な環境下においても、一層の原価低減と生産性向上活動を推進していくことで、為替や市況に左右されないリーナな体質の強化を図っていきます。

## 完成品

### 各方面で導入が進むフリーアクセスフロア時代のニーズに応じて次々と新製品を開発



1962年、アーレスティは日本で最初のアルミニウムダイカスト製のフリーアクセスフロアパネル「モバフロア」を開発しました。フリーアクセスフロアとは、配線・配管を床下に納める二重床システムのことです。一般オフィスや病院などに幅広く利用されていますが、当社では特に半導体生産工場などのクリーンルームやデータセンター、コンピュータールーム用フロアパネルに注力しています。

アルミダイカスト専門メーカーの自負・高い技術力を背景に、最軽量フリーアクセスフロアを商品化。アルミダイカスト単一材なので100%リサイクルであり、軽量化により輸送に伴うCO<sub>2</sub>削減効果、建築躯体への重量負担減による長寿命化に貢献、期待ができます。



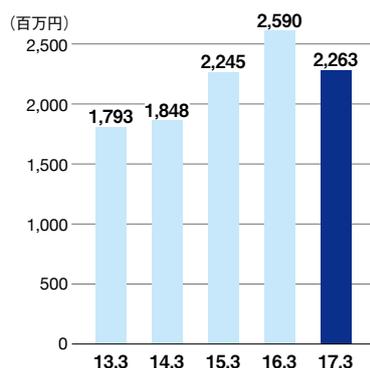
モバフロア L60N

モバフロア L60S

## 今期の業績報告

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が前年に比べ減少したことにより、売上高は2,263百万円(前期比12.6%減)となりました。収益面においては、主に減収による影響等により、セグメント利益は155百万円(前期比26.7%減)となりました。

売上高推移



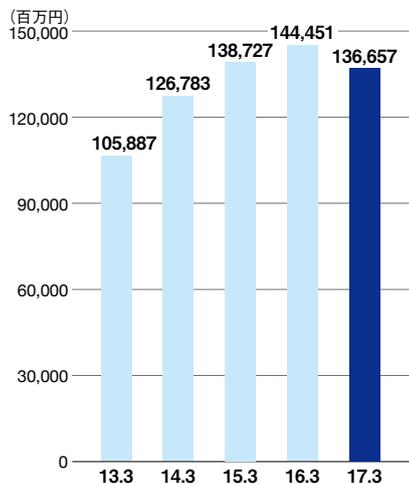
## 来期への展望

2016年度の日本国内のアルミ製フリーアクセスフロア市場は前年度に比べ22%減少しましたが、商品化した軽量フリーアクセスフロアの市場での販売や営業活動により、当社は13%の減少に抑えることができました。

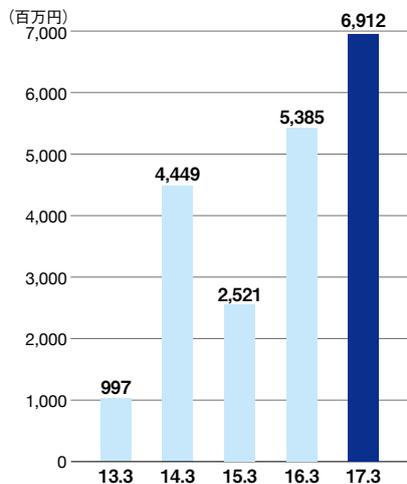
2017年度は前年度と同等の市場と予測しており、さらに企業努力を重ね、競争力を強化します。海外においては中国を中心に拡販し、事業の拡大を目指します。

# 連結財務ハイライト

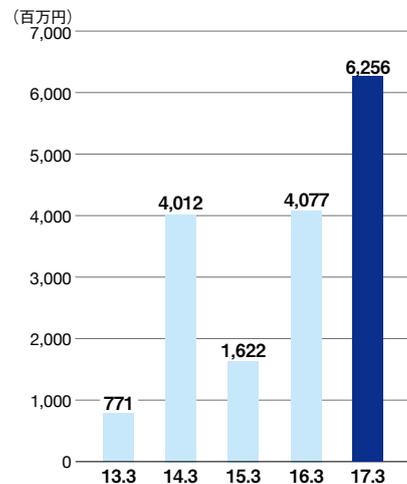
## 売上高



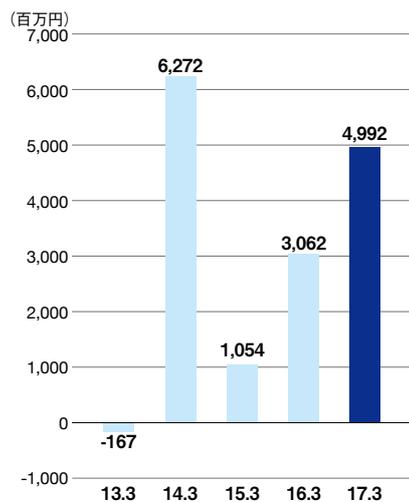
## 営業利益



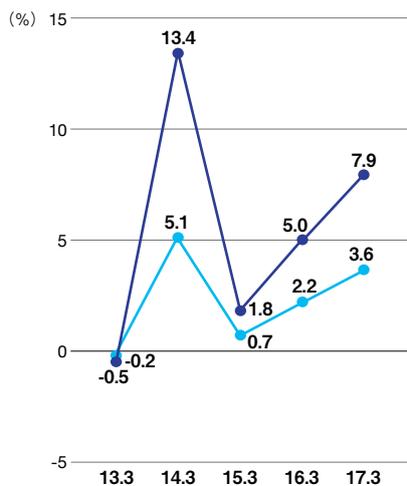
## 経常利益



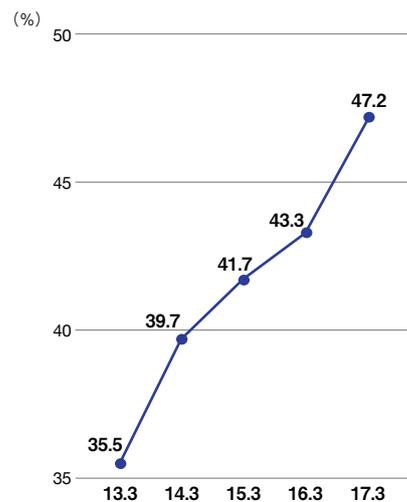
## 当期純利益



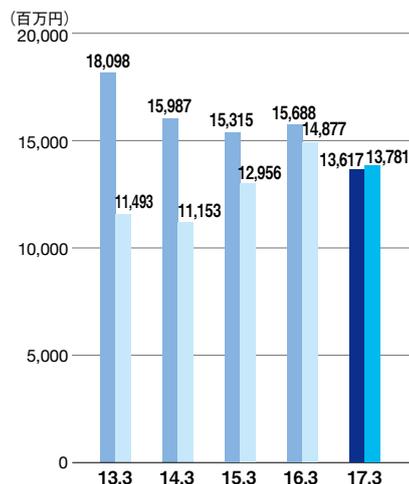
## 自己資本当期純利益率 (ROE) / 総資産当期純利益率 (ROA)



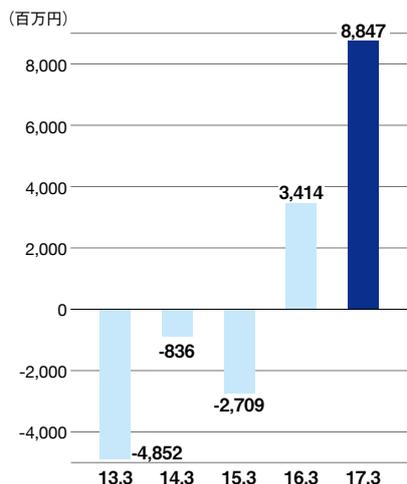
## 自己資本比率



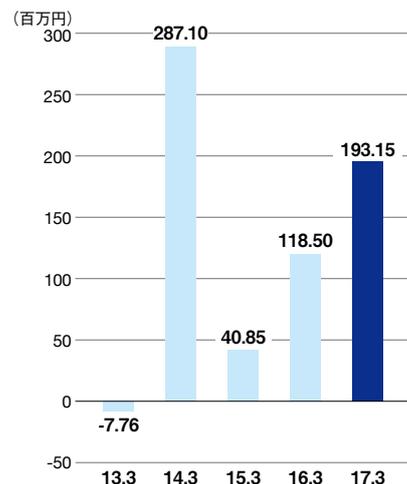
## 設備投資額※1 / 減価償却費※1



## フリー・キャッシュ・フロー※2



## 1株当たり当期純利益



※1 金額は金型を含みます。 ※2 フリー・キャッシュ・フロー＝(営業活動によるキャッシュ・フロー)－(投資活動によるキャッシュ・フロー)

# 環境活動

公害防止活動をはじめ、アーレスティならではの社内環境資格や社会貢献活動など様々な環境活動を行っています。

## Ahresty eco ライセンス

社員の環境の知識向上を図るため、「Ahresty eco ライセンス」という、環境に関する独自の社内試験制度を設けています。年に数回の試験を実施し、現在まで8割近くの社員が合格し、日々環境意識の高い活動を行っています。

## アーレスティ・グリーン大会

アーレスティ・グリーン大会とは、社内における環境の改善活動事例報告会です。今回で第14回の開催となりました。ここで報告された効果的な活動は、他の事業所でも水平展開されており、コミュニケーションの場としても有効な行事となっています。



事業所	テーマ内容
東海工場	水処理スラッジ廃棄量の削減
アーレスティプリテック	エネルギー使用量削減の取り組み
東松山工場	溶解関連のCO <sub>2</sub> 排出量の削減の取り組み
熊谷工場	溶解の重油原単位改善
アーレスティ栃木	グラスウール廃棄量削減
アーレスティダイモールド熊本	加工改善によるCO <sub>2</sub> 削減
アーレスティ山形	加工系廃水処理量の安定化
アーレスティ熊本	水道水(上水道)使用量の低減

## 積極的な自然環境保護活動への貢献

アーレスティは、アルミダイカストの製造を通じて、自動車の軽量化、環境対応に貢献してきました。社員からの「仕事以外でも環境保護活動に貢献したい」という声をもとに、自然環境保護活動に積極的に取り組んでいます。

2007年から埼玉県越生町に「アーレスティの森」を持ち、東松山工場・熊谷工場、東京本社合同で植栽や間伐等の森林整備活動を行っています。地域の清掃活動や、生物多様性を意識した里山づくりなど、多岐にわたる活動を推進しており、2016年度は全社員の9割近くが参画しています。



### 活動事例

- アーレスティの森づくり (里山づくり)
  - 岩屋緑地里山ボランティア活動
  - フラワーロード清掃及び河川アダプト活動
  - 介護施設クリーンボランティア
  - 赤十字血液センター献血ボランティア
  - 浜名湖クリーン作戦
  - 荒川の恵みと熊谷を考える集い
  - 天竜川クリーン作戦
  - 梅田川ふれあいクリーン作戦
- など 計約 80 イベント

# 環境目標と実績

公害防止等の足元のことから、地球温暖化防止や資源枯渇対策のための省エネ省資源活動など、生産活動による地球環境への負荷低減に取り組んでいます。

## 2016年度環境目標と実績

### 国内目標と実績

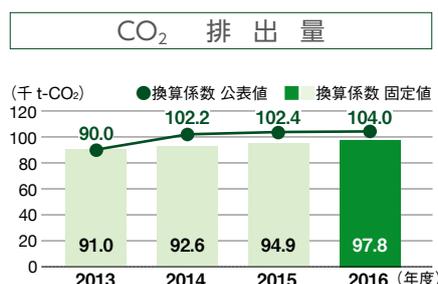


環境区分	中期目標	2016年度目標	2016年度結果	評価*	2017年度目標
大気 水質 騒音等	大気汚染、水質汚濁、騒音公害などの環境問題を発生させない	社外への流出、苦情をゼロにする。	1事業所で排水に関する社外への流出が発生した。	1	社外への流出、苦情をゼロにする。
廃棄物	廃棄物の総量削減を進める	最終処分量(埋め立て)を削減し、再資源化率100%にする。(サーマルリサイクル等による残渣を除く) また、総廃棄物原単位を、前年度比1%以上削減する。	再資源化率については、11事業所中7事業所で目標達成。未達に関してはいずれも、再資源化が難しいアルミ付きレンガくずが原因であった。廃棄物原単位については、11事業所中9事業所で目標達成。	3	最終処分量(埋め立て)をゼロにし、再資源化率100%にする。(鉍滓等のレンガくず及び耐火物、処理後の残渣を除く) また、総廃棄物原単位を、前年度比1%以上削減する。
省エネ 省資源	地球温暖化対策として、CO <sub>2</sub> 総量削減を行う	CO <sub>2</sub> 原単位を2012年度比4%削減(すでに達成している事業所は前年度比1%削減とする)。電気需要平準化評価原単位を2014年度比2%削減する。	主要7工場延べ実績では達成(881kg-CO <sub>2</sub> /tに対して834kg-CO <sub>2</sub> /t)。事業所別では、7事業所が目標達成し、4事業所が未達成。*電力係数は固定値で評価	3	CO <sub>2</sub> 原単位を2013年度比4%削減。(すでに達成している事業所は前年度比1%削減とする)もしくは、2013年度以降の最も良い結果だった年度から1%削減。電気需要平準化評価原単位を2014年度比3%削減する。
	工程に使用する水の使用量を削減する	水使用原単位を2015年度比1%削減する。	対象の7事業所中、5事業所で目標を達成。	3	水使用量原単位を削減する。*目標値は各事業所設定による
その他	環境に対する意識を高める	各事業所において正社員の64%以上を「Ahresty ecoライセンス」合格者とする。すでに達成している事業所は、事業所個別目標を設定する。	全事業所で目標を達成。累計として、合格者数1,627名(78.2%)となった。	5	各事業所において正社員の70%以上を「Ahresty ecoライセンス」合格者とする。すでに達成している事業所は、事業所個別目標を設定する。
	社会貢献活動を推進する	参画率を63%以上、一人当たりのエコポイント取得平均を140ポイント/年以上にする。	参画率については全事業所で目標達成。一人当たりのエコポイントについては、1事業所を除き全事業所で目標達成。累計として、参画率87.8%、一人当たり173ポイントとなった。	5	環境に関する社会貢献活動について、各事業所ごとに、開催回数目標値を設定する。

グローバルでの環境管理のため、海外工場においても、CO<sub>2</sub>削減、水使用量の削減など、国内同様の対象区分で環境目標を策定しています。

## 経年変化について

CO<sub>2</sub>は活動の削減効果を評価するため、CO<sub>2</sub>換算係数を過去から固定値で算出しています。活動の成果もあり、CO<sub>2</sub>排出量原単位、水使用量を昨年度から削減しています。



燃料や電気の使用をCO<sub>2</sub>量に換算した値です。なお、折れ線グラフで電力会社公表の換算係数で算出したCO<sub>2</sub>量を併記しています。



CO<sub>2</sub>排出量を生産重量で割った値で、1tの生産にいくらのCO<sub>2</sub>を排出したかがわかります。

## マテリアルフロー

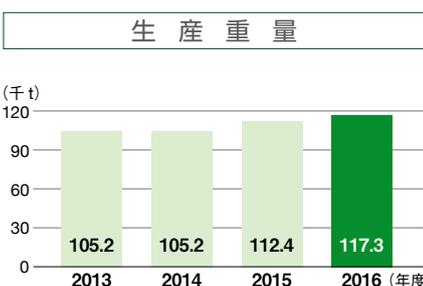
様々なエネルギー、資材を使い、必要なコストをかけて製品を生産しています。



Ahresty 対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日 (単位：千円)

分類・主な取り組みの内容		環境保全コスト		
		投資額	費用額	
事業所エリア内コスト				
内 訳	公害防止コスト	排水処理設備管理・更新・設備導入、排ガス処理及び集塵装置の維持管理、騒音対策	21,369	73,478
	地球環境保全コスト	省エネ活動（電気、重油）、省エネ設備導入、工場緑化、維持電力監視モニター	31,556	14,286
	資源循環コスト	水の循環利用、廃棄物・資源ごみの処理（分別・処分）、再生油の使用	6,685	172,615
小 計		59,610	260,379	
上・下流コスト	グリーン購入額	—	23,271	
管理活動コスト	環境委員会、内部監査、ばい煙・ダイオキシン・排ガス・騒音測定、社内教育訓練、ISO14001 認証維持	—	15,718	
研究開発コスト	合金協会（環境保全テーマ）、地金中環境負荷物質調査	—	6	
社会活動コスト	工場見学の受入れ、地域清掃活動、近隣コミュニケーション活動、ボランティア活動、NPO 寄付	—	228	
環境損傷対応コスト	汚染負荷量賦課金	—	1,966	
小 計		—	41,188	
合 計		59,610	301,567	
【収入】上・下流コスト	有価物売却額（鉄屑、廃プラ、シェル、廃油、廃紙など）	—	119,090	

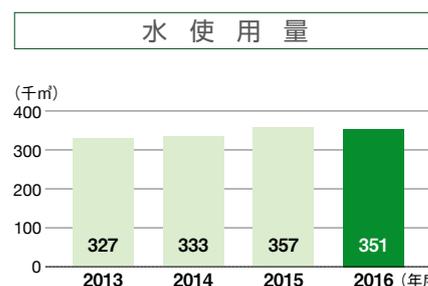
※投資は設備等固定資産になるもの、費用はその他とする  
 ※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、最新の電力会社公表値（2015年度値）を使用



アーレスティが生産した製品の重量です。エネルギー使用量は生産重量に比例します。



鉄やアルミを除く、事業所からのすべての排出物です。



上水及び地下水の使用量です。2011年度より水資源の節減も目標に加えています。

※経年データの存在する国内主要6工場の数値

# 安全衛生

アーレスティでは、安全最優先の原則のもと生産活動を行っています。  
 様々な安全衛生活動を行い、全社をあげて安全な職場を目指しています。

## アーレスティ安全理念

よく口にされる“安全第一”という言葉の内容を明文化し、その風土づくりを徹底していくため、グローバルで「アーレスティ安全理念」を掲げ、活動をしています。

### アーレスティ 安全理念

- 1、安全は、全ての作業に優先する
- 2、安全は、いかなる業務よりも重要である
- 3、安全は、常に生産効率よりも優先される
- 4、安全は、職場の整理・整頓・清掃から始まる
- 5、安全を優先できない人は、アーレスティには不要である

### アーレスティグループ 安全スローガン

「非定常作業に危険あり！  
 KY やって決め事守り  
 みんなでつくろうゼロ災職場！」

### 2016 年度重点活動実績

- 非定常作業による災害を無くすため、「止める・呼ぶ・待つ」や設備内立ち入りルールの徹底、非定常作業前のKY(危険予知)徹底活動
- 管理職・監督者・安全管理者による非定常作業の観察
- 過去災害に見る弱点領域の対策を推進（設備・機械の弱点に対する対策、過去に災害が多いエリア・職場ごとの対策）
- 「安全人間」づくりの推進

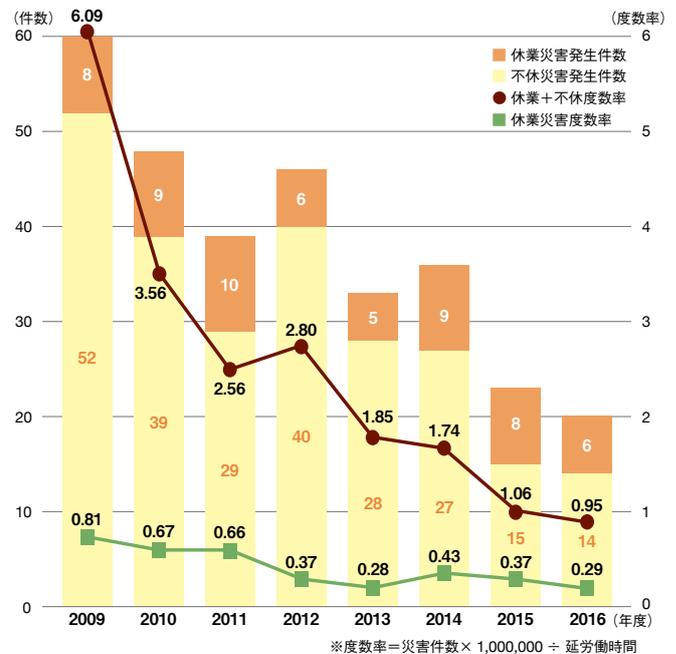
## 安全体感教育

アーレスティでは「安全体感教育」として、職場に存在する様々な危険を具体的に示し、「見て、聞いて、感じる」という人間の基本的な働きを通じて直感的な理解を促し、危険感受性を高めるための教育を推進しています。

過去、アーレスティで発生した重篤な災害や潜在するリスクなどから科目を設定し、各事業所で安全道場が設置され、教育が進められています。



## 災害統計



## 安全人間評価

管理監督者並びに作業者がそれぞれに応じた安全に関する知識を持ち、日々それを実践して安全に日常業務を遂行できる「安全人間」をつくっていく活動です。評価項目は十数項目あり、備えるべき安全に関する力量や意識を身に付けてもらうためのフォローを行っています。

※監督者 評価項目例

評価項目
常にルールを遵守して、指差し呼称など部下の見本となる行動をとる。
朝礼や昼礼時は、必ず安全に関する話をする。
法定・社内点検の計画をつくり、必要点検表を準備する。
安全に関するルールや基準の制改定時には、自職場における遵守事項について、必要な部下へ速やかに周知する。
標準の無い作業は「止める・呼ぶ・待つ」を部下に周知徹底する。
自職場に必要な安全に関するルール・基準・標準作業書の安全ポイントについて、部下へ教育を行う。
職場を毎日巡視し、不安全行動を発見したらその場で厳しく指導する。
巡視の時には特に非定常作業の作業観察を行い、安全のポイントをしっかり守って作業しているか、確認・指導する。また、作業観察の実施状況を確認する。
作業環境測定の結果から、必要な保護具の着用指示や、作業環境改善を行う。

# トピックス

## 2016 ダイカスト展示会

2016年11月24日より3日間、パシフィコ横浜にて開催されたダイカスト展示会に出展しました。「品質を究める」、「技術を究める」、「信頼を究める」をコンセプトに、HiGF法、NI法など特殊工法の紹介と、EV、FCVなどのダイカスト製品を展示しました。来場者約23,000人の中、当社ブースにも沢山の皆さまにお越しいただき盛況な展示会となりました。



## 熊本地震

2016年の熊本地震では、アーレスティ熊本も被災しました。4月14日の地震発生後、順次生産設備の復旧・生産を開始しましたが、4月16日未明の本震により再度生産を休止しました。その後、安全確保に努めながら生産復旧に向けた対応を行い、4月18日より順次生産を再開しました。早期復旧、迅速な納入対応が評価され、ヤンマー株式会社より感謝状を頂きました。



## 2016年で10周年を迎えました



6月 Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.



9月 テクニカルセンター

## 2016年度 主な受賞・表彰



ダイハツ工業株式会社より貢献賞を受賞

5月



Ahresty India Private Limited がインド QC 協会より金賞・銀賞の他、特別賞などあわせて7つの賞を受賞

7月



合肥阿雷斯提汽车配件有限公司の品質管理部が瀋陽航天三菱汽車發動機製造有限公司より「2016年度優秀サプライヤー」を受賞

12月

ヤンマー株式会社より感謝状授与



トヨタ自動車株式会社より感謝状授与



2月

アーレスティ栃木が技能検定への貢献で厚生労働大臣より表彰



アーレスティ熊本 金型課 宮嶋久義さんが一般社団法人軽金属学会より高橋記念賞を受賞

アーレスティ栃木 鋳造課 福田博之さんが一般財団法人素材材センターから優良従業員として表彰



11月

日野自動車株式会社より品質管理優良賞を受賞



3月

Maruti Suzuki India Limited より Overall Excellence を受賞



5月

# 生きいきと活動する会社をつくる

## アーレスティの ひとづくり

アーレスティは、社員一人ひとりが、仕事を通じて成長し、自分の仕事に対して誇りを持って働ける職場づくりを常に目指しています。

### グローバルでのひとづくり

IoTの進展と自動化が進む生産現場においても、技術と品質を究めていくためには、常に高いレベルを目指したひとづくりが欠かせないとアーレスティは考えています。「共通教育」と各種の専門技術を学ぶ「専門教育」に分け、体系的に教育を受けられる体制を整えています。

#### ■ グローバルRST ラーニング

創業時から蓄積してきたものづくりのノウハウを伝承する「RST学園」を2016年度より海外展開し、グローバルで全社員が同一水準の教育を受講できる教育体系を整備しました。

必要な教育を誰でも受講でき、標準の大切さを演習で体験する教育を推奨しています。



#### ■ Global Kaizen Meeting

Global Kaizen Meeting は、全拠点で技術力・技術水準を向上させることを目的に開催しています。全拠点の技術者が一堂に会し、事例発表やグループディスカッションを行いながら問題の改善点を探り、今後に向けた取り組みを重ねています。

高品質で生産性の高い製品づくりに向けて全拠点が協力して取り組んでいます。



#### ■ ものづくり塾

ものづくり塾は、次世代のアーレスティを担う幹部候補生を育成する場として、2012年から開始しました。約1年間に及ぶ入塾期間の間に、技術的な知識や技能だけでなく、幹部候補生としての経営の視点を持ちながら、課題や問題点を発見し、判断・解決を図っていくことでものづくりの本質を追究します。

現在ものづくり塾の卒業生は、国内外の工場やテクニカルセンターの経営幹部やリーダーとして活躍し、アーレスティのものづくりを次世代に伝えています。

## QC サークル活動

1971年、東京・浜松で第1回社内大会から始まったQCサークル活動は、国内外での事業の拡大に伴い、活動もグループ全体に拡大しています。毎年開催しているグローバルQCサークル大会には、国内外の全21事業所が参加し、グローバルでお互いの活動を切磋琢磨する場となっています。特に近年は海外でのQCサークル活動も活発に行われ、社外での大会でも表彰を受けるレベルに成長しています。



## 活発なコミュニケーション

仕事でのチームワークは日頃の円滑なコミュニケーション活動から始まります。アーレスティでは、業務はもとより、スポーツやイベント活動でもコミュニケーションが活発です。



## 地域社会と ともに

アーレスティは、地域社会に根ざした工場を目指して日々努力すると共に、自らが率先して社会へ貢献できる人材を育てています。地域社会と共にアーレスティは発展していきます。

## 近隣コミュニケーション

アーレスティの工場では、ダイカストの製造段階や運搬車両によって発生する音等の発生源対策を進める一方、工場に隣接する住宅や自治会、企業などを訪問し、本レポートを活用した定期的なコミュニケーションに努めています。また、地域社会の安全活動の一環として防犯パトロールへの参加なども行っています。

## グローバルな企業市民の一員として

アーレスティは、1988年の米国法人設立以降、5か国にグローバル生産拠点を展開しています。グローバルでも地域社会に根ざした企業として、積極的に地域との交流を行っています。



# 会社情報

## グローバル展開

世界中のお客様のニーズに対応するため、積極的にグローバル展開を推進しています。

### 主な海外事業所



#### Ahresty India Private Limited

事業内容：ダイカスト製品の製造、  
機械加工、部品組付  
月産能力：1,000t  
敷地面積：58,500㎡

#### 阿雷斯提精密模具(広州)有限公司

事業内容：ダイカスト製品用金型製作  
敷地面積：8,748㎡



#### 広州阿雷斯提汽车配件有限公司

事業内容：ダイカスト製品の製造、  
機械加工、部品組付  
月産能力：2,700t  
敷地面積：81,691㎡



#### Ahresty Wilmington Corporation

事業内容：ダイカスト製品の製造、  
機械加工、部品組付  
月産能力：1,900t  
敷地面積：170,000㎡

#### Thai Ahresty Die Co., Ltd.

事業内容：ダイカスト製品用金型製作  
敷地面積：16,940㎡

#### Thai Ahresty Engineering Co., Ltd.

事業内容：ダイカスト製品設計、  
ダイカスト製品用金型設計、  
3Dデータのモデリング

### 株式会社アレスティ



#### 合肥阿雷斯提汽车配件有限公司

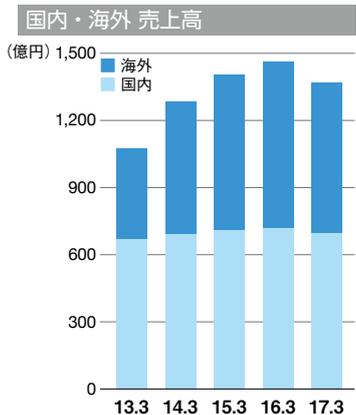
事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、  
部品組付、フリーアクセスフロア製造  
月産能力：1,300t  
敷地面積：50,500㎡



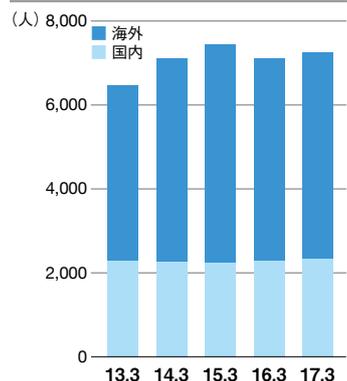
#### Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、  
部品組付、ダイカスト製品用金型製作  
月産能力：2,600t  
敷地面積：136,216㎡

### 売上高／従業員数推移



### 国内・海外従業員数



### 主な国内事業所

#### (株)アレスティ栃木

事業内容：ダイカスト製品の製造、  
機械加工、部品組付  
月産能力：3,000t  
敷地面積：103,098㎡

#### (株)アレスティダイモールド栃木

事業内容：ダイカスト製品用金型製作  
敷地面積：6,612㎡

#### 熊谷工場

事業内容：アルミニウム合金地金の製造  
月産能力：3,000t  
敷地面積：47,105㎡

#### (株)アレスティ山形

事業内容：ダイカスト製品の製造、  
機械加工、部品組付  
月産能力：400t  
敷地面積：35,156㎡

#### 東松山工場

事業内容：ダイカスト製品の製造、  
機械加工、部品組付、  
フリーアクセスフロア製造  
月産能力：300t  
敷地面積：22,781㎡

#### 東京本社

#### (株)アレスティダイモールド浜松

事業内容：ダイカスト製品用金型製作  
敷地面積：13,320㎡

#### (株)アレスティテクノサービス

事業内容：ダイカスト周辺機器の製造・  
販売・修理 ほか  
敷地面積：9,241㎡

#### (株)アレスティプリテック

事業内容：オートバイ・自動車・汎用機の主  
要構成部品の精密機械加工  
敷地面積：23,616㎡

#### 東海工場

事業内容：ダイカスト製品の製造  
月産能力：3,200t  
敷地面積：62,414㎡

#### 本社・テクニカルセンター

事業内容：製品の設計・研究開発  
敷地面積：90,333㎡

#### (株)アレスティ熊本

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、  
部品組付  
月産能力：500t  
敷地面積：34,044㎡

#### (株)アレスティダイモールド熊本

事業内容：ダイカスト製品用金型製作  
敷地面積：12,863㎡

# 企業情報・株式情報

## 企業情報

### 会社概要 (2017年3月31日現在)

商号：株式会社アーレスティ  
 資本金：69億3,909万円  
 設立：1943年11月2日  
 従業員数：【連結】7,215名  
 【単独】919名

### 取締役 (2017年6月15日現在)

- 代表取締役社長  
最高執行責任者 高橋 新
- 取締役  
常務執行役員 蒲生 新市
- 取締役  
常務執行役員 金田 尚之
- 取締役  
常務執行役員 伊藤 純二
- 取締役  
常務執行役員 高橋 新一
- 取締役  
執行役員 野中 賢一
- 取締役  
(監査等委員) 石丸 博
- 社外取締役  
(監査等委員) 早乙女唯夫
- 社外取締役  
(監査等委員) 志藤 昭彦
- 社外取締役  
(監査等委員) 浜村 承三
- 社外取締役  
(監査等委員) 塩澤 修平

## 株式情報 (2017年3月31日現在)

### 株式数および株主数

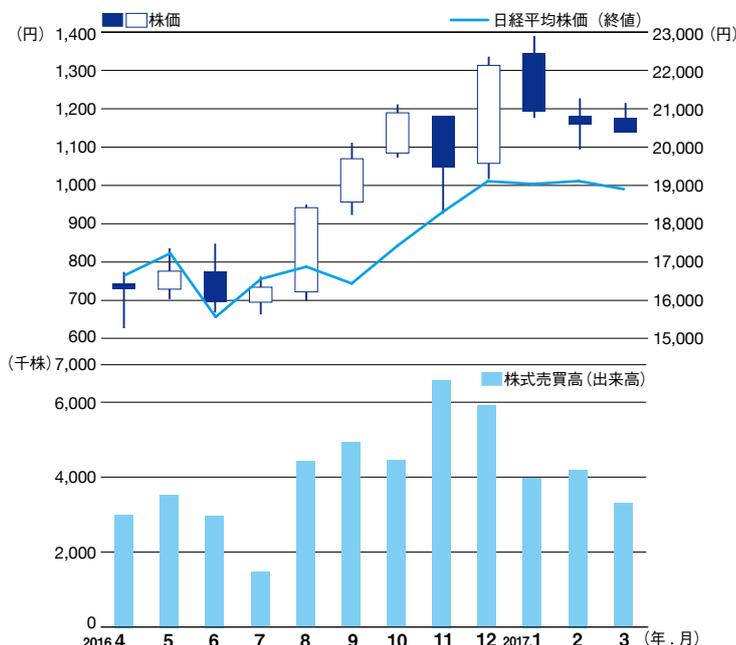
発行可能株式総数：60,000,000株  
 発行済株式の総数：26,027,720株  
 株主数：4,044名

### 所有者別株式分布状況

金融機関	外国法人等	個人・その他	その他の法人
28.4%	28.2%	24.7%	15.3%

金融商品取引業者 3.4%

### 株価・株式売買高の推移



## あゆみ

- 1938年6月 ● 当社の前身志村アルミニウム株式会社創立  
アルミニウム合金地金、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1943年11月 ● 扶桑軽合金株式会社を設立、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1960年3月 ● 株式会社日本精密金型製作所  
(現：株式会社アーレスティ ダイモールド浜松) を設立
- 7月 ● 扶桑軽合金株式会社浜松工場操業開始
- 1961年10月 ● 扶桑軽合金株式会社の株式を東京証券取引所第2部に上場
- 1962年4月 ● 東海精工株式会社 (現：株式会社アーレスティブリテック) 設立
- 1963年3月 ● 京都ダイカスト工業株式会社豊橋工場 (現：東海工場) 操業開始
- 1971年3月 ● 栃木フソー株式会社 (現：株式会社アーレスティ栃木) を設立
- 1972年3月 ● 株式会社ダイテック (現：株式会社アーレスティダイモールド栃木) を設立
- 1976年9月 ● 熊本フソー株式会社 (現：株式会社アーレスティ熊本) を設立
- 1981年3月 ● 株式会社ダイテック熊本工場  
(現：株式会社アーレスティ ダイモールド熊本) 操業開始
- 1984年7月 ● 扶桑軽合金株式会社熊谷工場操業開始
- 8月 ● 扶桑軽合金株式会社東松山工場操業開始
- 1985年5月 ● パスカール販売株式会社 (現：株式会社アーレスティテクノサービス) を設立
- 1988年5月 ● Ahresty Wilmington Corporation を設立
- 10月 ● 社名を扶桑軽合金株式会社より株式会社アーレスティに変更
- 1989年10月 ● 株式会社アーレスティ '89年度デミング賞実施賞 (中小企業賞) 受賞
- 1997年2月 ● Thai Ahresty Die Co., Ltd. を設立
- 3月 ● 株式会社アーレスティ ISO9001 (建材) 認証取得  
株式会社アーレスティ ISO9002 (ダイカスト・アルミニウム) 認証取得
- 2001年3月 ● 株式会社アーレスティ ISO14001 認証取得
- 2002年7月 ● Thai Ahresty Engineering Co., Ltd. を設立
- 2003年8月 ● 広州阿雷斯提汽车配件有限公司を設立
- 10月 ● 京都ダイカスト工業株式会社と株式会社アーレスティが合併
- 11月 ● 第20回素材産業技術表彰にて「経済産業大臣賞」受賞
- 2005年3月 ● 阿雷斯提精密模具 (広州) 有限公司を設立
- 4月 ● パスカール工業株式会社と菅原精密工業株式会社が合併し、社名を株式会社アーレスティ山形に変更
- 6月 ● 本社を東京都中野区中央に移転
- 2006年6月 ● Ahresty Mexicana, S.A. de C.V. を設立
- 9月 ● テクニカルセンター開設
- 2007年1月 ● Ahresty India Private Limited を設立
- 2010年8月 ● 合肥阿雷斯提汽车配件有限公司を設立
- 2011年4月 ● 浜松工場と豊橋工場を統合し、東海工場として再編
- 2013年10月 ● 本店・本社を愛知県豊橋市に移転 (旧本社を東京本社に)
- 2014年2月 ● 東京本社を東京都中野区本町に移転
- 3月 ● 東京証券取引所市場第2部から同市場第1部銘柄に指定
- 11月 ● 株式会社アーレスティ東松山工場 ISO/TS16949 認証取得
- 2015年1月 ● 株式会社アーレスティ東海工場 ISO/TS16949 認証取得

# Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research（研究開発）、Service（サービス）、Technology（技術）において常に主導的リーダーとして前進しようという企業姿勢を具現化したものです。なお、「Casting」は「投げかける」という意味の他に、当社の主要事業である「Die Casting」の意味も込めています。

株式会社 **アーレスティ**

東京本社

東京都中野区本町 2-46-1

中野坂上サンブライトツイン 5F

TEL 03-6369-8660 FAX 03-5358-5331

URL <http://www.ahresty.co.jp>

発行 2017年 6月

